

大学出版

11
号
'91
春



大学出版部協会

Association
of
Japanese University
Presses

北海道大学図書刊行会

Hokkaido University Press

慶應通信

Keio Tsushin Co., Ltd.

産能大学出版部

The SANNO Institute of Management

玉川大学出版部

Tamagawa University Press

中央大学出版部

Chuo University Press

東海大学出版会

Tokai University Press

東京大学出版会

University of Tokyo Press

東京電機大学出版局

Tokyo Denki University Press

東京農業大学出版会

Tokyo University of Agriculture Press

東京理科大学出版会

Science University of Tokyo Press

法政大学出版局

Hosei University Press

放送大学教育振興会

The Society for the Promotion of
the University of the Air

明星大学出版部

Meisei University Press

早稲田大学出版部

Waseda University Press

名古屋大学出版会

The University of Nagoya Press

京都大学学術出版会

Kyoto University Press

大阪経済法科大学出版部

Osaka University of Economics and Law Press

関西大学出版部

Kansai University Press

九州大学出版会

Kyushu University Press



大学出版
11号

Spring 1991

読書の周辺・映像文化と活字文化	杉野明夫	1
言葉と品質の障壁	中陣隆夫	5
——42回フランクフルト・ブックフェア「日本年」レポート——		
第九回 日韓大学出版部協会 合同セミナーに参加して	加藤千曼樹 田中浩 大江治一郎	8
プリンティングフェア'90を見学して	秋田公士	9
名古屋地区営業研修会	佐野雄治	9
大学出版部ニュース		10
新刊案内 '90・10 ~ '91・3		15
第12回(平成二年度)日本生命財団出版助成図書		24

大学出版部協会マーク・デザイン 道吉 剛

本小冊子の表示価格は、税込価格です。

映像文化と 活字文化

杉野 明夫

(大阪経済法科大学出版部長、経済学部教授)

ハイテクを駆使したさまざまな近代兵器の威力が、これまたハイテク映像機器によってテレビ画面に登場している。一九九一年一月十七日、多国籍軍はイラク軍と軍事施設に対し、大量のミサイルや航空機による「砂漠の嵐作戦」を開始し、私たちの眼はテレビに釘づけになった。

戦争がテレビを通じて「お茶の間」に飛びこんだのは、ベトナム戦争後期からといわれるが、当時とは違い今回は、リアルタイムで伝えられる全くの生放送である。出撃するアメリカの爆撃機が映しだされるとともに、バグダッドに残留したCNNテレビからであろうか、緑色をした夜空に蛍が一つの方向に飛び立つようにミサイルの発射する映像が映しだされていた。

テレビという最も強力なメディア(媒体)が、ハイテク戦争とよばれるこの戦争を、「テレビゲームさながらにリアルタイムで放映している」ことは、危険な一面を感じさ

せる。

「ベトナム戦争のばあいは、テレビの迫真性がアメリカを含む全世界の反戦への動きにつながった。だが今回のハイテク戦争にあつては、爆弾やミサイルの投下点に、『女子供』などの非戦闘員がそのかぼそげき生命を恐怖にゆるがせているという視点は、ほとんど完全に脱け落ちてゐる。かつてのテレビキャスターとして、自責の思いを禁じえぬ。

軍事や戦略の専門家と称される人々が、実にあつげらかんと、応用力学の問題でも扱っているかのようになり、ときとして笑いさざめきながら解説してくれるのである。」(国弘正雄「自己否定のプロセス」『世界』一九九一年三月号)

アメリカでは、テレビに招集された退役将校、政府の元閣僚、外交・防衛問題のインテリたち(テレビ戦士と呼ぶ)が現われて、政治的・軍事的な予測をしてくれた。アーキンなる人は、「いまや戦火に巻きこまれてしまった世界は、こうしたテレビ戦士が生みだした世界であるように思えてならない」と言っている。

「……戦争が容易でしかも短期間のものになるという予想を耳にするとき、テレビ戦争の最初の数日間のすべてが、あまりにも隔絶し、あまりにも非情で、しかもあまりにも抽象的なもののように思えてくる。テレビ戦士たちは明晰で、敏感で、みんなインタビュウを受けたときに答えるべきもつともな答え——兵士に対する支援や楽観しすぎることへの警戒、戦争や中東の複雑さについての戒め——についてよく知っていたが、彼らのこの冷静さは、実際に

いま血が流されているにもかかわらず、研究室にいて世界について研究しているときと全く同じなのだ。」(ウィリアム・アーキン「テレビ戦士はあまりに流暢に語りすぎる」同前誌)

戦争が容易で短期間のものになるという予想は、ほかでもなくテレビ戦士やアメリカの戦争指導者が流していたものである。ある解説者は「この戦争は六分間戦争として知られることになろう」と語り、ある記者は、「イラク兵の一人に一人を殺した」、「近代兵器の支障になる邪魔物はなくなつた」と豪語した。(前出)

実際にいま血が流されているにもかかわらず、現実から、あまりにも隔絶し、あまりにも非情な、テレビ戦士の姿勢と、あっけらかんと応用力学の問題でも扱っているかのような解説者の姿勢には共通のものが感じられよう。さらに今回のテレビ戦争は、プラモデルと砂漠の模型までもちだして解説し、また、縦と横の線が十字に交差する点に現われた目標物が爆弾やミサイルの命中で消える映像を映しだして戦争を抽象のゲームの世界に引き込もうとしている。

情報に対するメディア(媒体)として、いままでテレビなどの映像は新聞・雑誌・書籍などの活字と対照的に論じられてきた。しかし具体的にテレビ報道の果たしている機能からみると、多くのすぐれた解説者がつき、新聞が後に報道するところを巧みに要約してくれ、戦争までリアルタイムに「お茶の間」にとどけてくれる。これだけ強力なメ

ディアだけに、その受け手はしっかりした眼光が要求されるし、活字文化のほうは、独自の積極的な役割が鋭く問われなければならない。

今回の戦争は、メディアを駆使したアメリカとイラクの現代的情報戦の対決であった。「週刊SPA」は、メディア・ウォーズと題する記事をつくっている。

ケンブリッジ・フォーキャスト・グループの藤井昇は言っている。

アメリカの情報戦はベトナム戦争の教訓から世論を気にしている。ベトナムの時には、メディアがベトナムに続々と入って戦争の悲惨さを伝え、アメリカでも反戦ムードが高まった。今回はバグダッド攻撃やピンポイント爆撃(前述の目標とする建造物に命中させることか——杉野)の様子をテレビが伝え、数日で戦争が終るような印象を与えてしまった。アメリカは、血が決して写し出されないトマホーク発射の映像やピンポイント爆撃の模様を流したのである。

今までのところ世論対策としての情報戦は、大体うまくいっている。報道管制も利いており、われわれが受けとる情報は、ほとんど報道管制下にあるアメリカの通信社かテレビ局だけからである。アメリカ軍は、残酷な映像の放送禁止といった放送コードも作っている。

これに対するイラクの情報戦をアジア経済研究所の酒井啓子はのべている。

開戦直後、フセイン大統領が頭を床につけて折るシーンを伝え、軍事的にでなく政治的勝利をめざして殉教者とし

ての道を歩みはじめるという方向を打ちだした。イラクの情報戦の狙いは、国民の士気を低めない程度に被害をアピールして同情を得るといふものだ。一月二十一日、CNNテレビを通じて全世界に「多国籍軍がイラクのミルク工場を破壊した」との報道があり映像が流れた。

二十二日には、イスラム教徒の礼拝所が攻撃されたので、イラク軍はクウェート内の油田施設や石油貯蔵施設の爆破を始める。正気の沙汰ではない、という西側の一般の見方とは異なり「二つの大きな目的があって、一つは、民間施設への攻撃に対する同等の報復攻撃、もう一つは、原油が炎上して視界を悪くさせ、サウジアラビアや湾岸の水の供給システムに影響を出すという軍事目的です。」西側はイラク人の命より海鳥一羽のほうを心配するじゃないか、原油だって、自分たちが必要な原油はとっておくかも知れないけれど、買えなくなつて困るのは君たちじゃないか、という発想です。」——このように、イラク軍による油井施設爆破と原油流出（テレビの映像が生々しく伝えて世界の人々に大きなショックを与えた）の意味を分析している。（『メディア・ウォーズ』『週刊SPA』二月二十七日号）

テレビ映像の強烈な印象は、時には人の判断を乱しかねない。一九八九年の「天安門事件」について述べておきたい。

六月四日午前〇時半、約千人の兵士が広場を取りかこむ。午前二時すぎ、病院に負傷者が運びこまれ、顔を血で染めた学生、青年。午前四時、広場から退去せよ、と当局

側の放送が繰り返し流れる。けたたましい銃声が広場にひびき、逃げまどう学生、青年たち。三方面から装甲車・戦車が迫り、バリケードやテントを踏みつぶす。戒厳部隊は運動の象徴となった「民主の女神像」を引き倒す……。

これが、日本など西側の新聞が伝え、テレビが「実証」してくれた事件の概観であろう。

月刊誌『03』（一九九〇年七月号）は、いう。

「六・四、昨年この日、天安門広場でおびたらしい人民が銃弾をあび、戦車にひきつぶされて天に召された。中国政府がいかなる詭弁を弄しようとして、私たちはあらゆるメディアを通じて一部始終を目撃した」と。最後の瞬間まで現場にとどまり撮影したという今枝弘一の証言を聞こう。

「……広場にとどまり、水平射撃してくる戒厳軍の銃撃をゴミ箱のドラム缶の影にかくれて写真をとった。その中には戦車がテントごと人間を踏みつぶした写真もある。これは虐殺を証拠づける今のところ世界の唯一の写真でもある。」（『天安門への返信』JICC出版局）

今枝の「証言」の矛盾を矢吹は突く。「すでにひかれた学生に「再び装甲車が迫る」とは奇妙だ。「人間らしきものがテントの布に包まれて踏みつぶされる」というのも、あくまで「らしきもの」で、人間らしき形をした物塊が「踏みつぶされた」のではなからうか。（矢吹晋編著『天安門事件の真相』蒼蒼社）

BBCのシン普森記者の「証言」。「われわれは戦車がテントを押しつぶすのを写した。……数十の人々がそのよ

うにして死んだように見えた。それを見た人は戦車の騒音の中からテントの中の人々の悲鳴を聞くことができたと言った。(記者本人が聞いたのではないことに注意——杉野) われわれは広場の街灯が四時に消された時に写した。彼らは四十分後に再び点灯したが、その時に軍隊と戦車が記念碑に向かって移動し、まず空に向けて射撃し、それから学生を直射した。」

このような報道が、「天安門広場、血の虐殺」の定本となり、尾ヒレがついて拡がったのである。

シン普森記者は北京飯店で原稿をかいたが、そこから現場の人民英雄記念碑は見えないのである。

六月四日に最後まで踏みとどまって人権侵害状況を監視した人権監視委員のロビン・マンローは、「広場撤退」の真相が世界に伝えられなかった理由を明らかにしている。

「ロゼット記者とボムフリット記者は、撤退について正確な報道を送ったが、これらは孤立した報告として、北京の他の地域からの長い報告のなかに埋没してしまった。」

「撤退を写した唯一の外国フィルムはスペインのテレビ・チームによるものであるが、彼らは殺戮(りく)を見ていないと主張した。……レスレポ記者は、その夜の出来事を写したフィルムがマドリッドのテレビ・エスパニョーラの編集者によって、殺戮は広場の整頓過程で起こったとする偽りの印象を与えるものに書き直された、と語っている。」(同、「天安門事件の真相」)

デモに参加した中国の学生側からも、「一台の戦車は復

旦大学のテントを押しつぶした。その中に学生二人がいたにもかかわらず。彼らは『肉せんべい』のように押しつぶされた！」(中国人民大学自治会、申田久治『天安門落書』講談社現代新書) などがある。六月四日という日付も効果をねらったものと思われるが、死者三千人などと述べて、信用をなくしている。北京市当局でさえ、双方の被害者数を調査し終えて発表したのは六月末である。事件後に海外に脱出した学生リーダーの「虐殺」発言や声明も、感傷的な、あるいは扇動的な表現をはずして冷静に読めば、本人の体験と見聞によるものでないことが判る。

とも角、真実を書いた、映した報道は歪曲され、視聴者のもとにとどかず、虚報が世界を駆けめぐった、と言ってよまらう。

蛇足かも知れないが付け加えておこう。私は、天安門広場での虐殺なるものはなかった、と言うのであり、広場周辺で双方に死傷者があったことまで否定するものではない。私がこう言うと、本質的に同じことではないか、と反論する人もあろう。しかし天安門広場で学生たちが平和的に坐りこんだのを、人民解放軍が銃を向けた広場は血の海に化した、というのが西側のテレビ・新聞が当時強調し、視聴者を驚愕させたものであった。そして、中国国務院スポークスマンが、広場を整頓する過程で人を射殺する事件は発生しなかった、と述べたとき、日本の有力な新聞なども嘲笑的な解説つきでかき、まともに報道することが少なかったのである。

言葉と品質の障壁

— 42回フランクフルト・ブックフェア

「日本年」レポート—

中陣 隆夫

(東海大学出版会・国際担当委員)

*

世界的に普及した日本の伝統文化の一つとされる生け花や盆栽。ある国際図書展に参加した友人が会期中にやってきた客から質問を寄せられた。「盆栽はどんなホルモン注射をして、あんな風に小さくするのか」と。

これに対して、日本の国内出版は一流だが、国際出版では三流であると言われる。どんな障壁が国際出版を小さくしているのだろうか。どんな活力が国内出版を増大させているのだろうか。

「トランプのカードがBと出た。それは、Berlin BeginのBだ」と新聞の見出し。世界最大の書籍見本市、42回フランクフルト・ブックフェアは、昨年十月三日から八日まで開催された。三日は東西ドイツ統一の日。テーマ国にあてられた「日本年」会場。東京でも見れなかった世界最古

の書物『百万塔陀羅尼』が陳列されていた。その間も、前夜祭のフランクフルト市長のメッセージが耳に残る。西洋は、日本の出版文化に何を期待しているか。現実にはその交流に大きなインバランスのあること。

大学出版部協会として3回目の出展で、参加者は山下正、山口雅己と私の三名。日本学研究者に混じり、テレビ・ラジオや出版業界誌のインタビュアーもやってくる。

「フィガロ紙」のコルニッカ女史がやってきた。「海外の出版人にとって日本語の原稿、あるいは日本語版の本は、原稿に相当しないのヨ。でもネ、世界出版に目を拡げれば、コストダウンにもなるでしょうに」。

背の高い中年女性、マンスハルトさん。「日本人は、たくさんドイツ文学を学んでいます。その逆は少なく日独の間には文化の流れに一方通行がありすぎヨ。これはアンバランスです。日本発の作品が正確に海外に流れて欲しいと思ってマス。それには良い翻訳者が必要でしょうネ。日本は経済一等ですべて良いと思っていますヨ。教育についてもドイツから学ぶことが沢山あると思ひマスヨ」と。函館育ちの彼女、日本への哀愁を込めて話してくれた。分かってますよ。好きな学科で、好きなだけ無償で勉強できる国だと言うことくらいは。友人がおしえてくれた。日本人のドイツ研究者は約三千五百人、逆にドイツの日本研究者は約五百人。ドイツ語から日本語への翻訳書は年に約四百点。その逆がわずか一五点だそうである。

ちょうどそこへ、ターバンを巻いたチョプラさんがやってきた。シンガポールからの出版者。一五年來の友人である。放送大学の日本語テキスト「Japanese」のリプリント版の企画の申し込みである。日本語熱の割に市民がなかなか買いくいのであるという、版權交渉であった。

経済一流の日本。ビジネス、マネジメント関連書への翻訳希望者が多いのは当然。ジュエトロの出版物にも注目が集まる。スペインはナバル大学出版部のマリアノ部長。日本の編集者からのリストが欲しいと言う。彼からは、千葉正士先生の「Legal Pluralism」の翻訳企画を交渉された。

日本の大学出版部の新刊案内を「University Press Book News」（年に四回で各三千部発行）にのせたいと言う、アメリカからやってきたレッドさん。ゼビレビューコピーを送ってほしいと。ただし英文版に限りデス。

いずれもAJUPのブースには検討に値する情報や問合せが多数寄せられた。出品点数が多いほどよい。

* * *

日曜日の半日、ハイデルベルグ大学日本学研究室を訪ねた。シャモニー教授夫妻に若林操子先生、山下正さんと私。コピーをいただきながら「日本年」シンポジウム、「日本文学はヨーロッパにとって何を意味するか」について伺った。

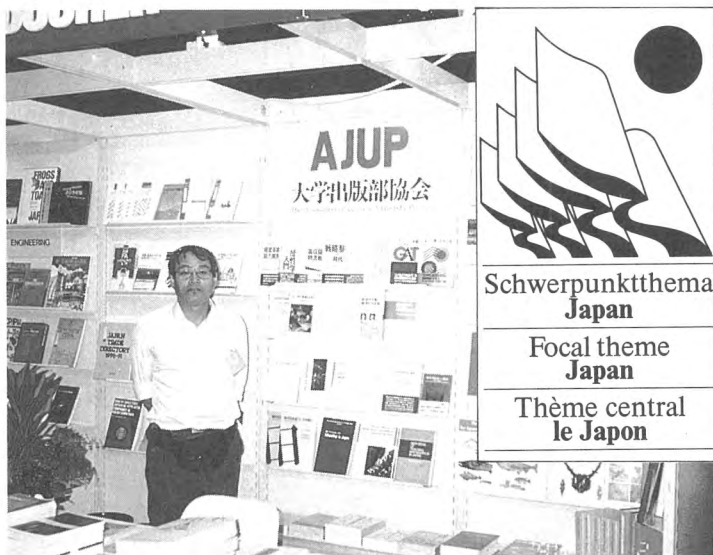
「日本の作家が外国でビールやお茶を呑みながら、自由に喋れるようになったらよい。それには、自分の思うこと

を短い言葉で言える学校教育が大切である。質問に率直に答えることにもなる」と。「註・シャモニー氏も同シンポに参加。日本からは佐伯彰一（司会）、大江健三郎・古井由吉のパネリスト」

シャモニー教授曰く。その一「日本の出版データを逐次まとめたインフォメーション・カタログ海外版は出されないのデスカ」と。先生は英国の良書をリストアップしたブリティッシュ・カウシル制作の「Books from Britain」をベタ褒めされる（87カ国に年間予算35億ポンド（約八百億円）の世界ネットワークと比較にならないのだが）。「これに比べ日本のみならず書房や筑摩書房は出店がないから分らない。出店がなくとも日本の出版状況が一目瞭然できないのはなぜか」と。「それは大学出版部の責任ではないのだが」

その二「ベルリン国立国会図書館の『文献目録』はヨーロッパである。この目録さえあれば東京の事務所でも借り出しが自由にでき、学術雑誌のコピーは無償である」と。そう言えばドイツ書籍出版協会に「Börsenblatt」誌がある。九〇年十月十二日号に、二四〇頁にわたり「日本年」のドキュメントがすべて収録されている。週刊でA4サイズ、メッセ閉幕後四日にして発売された。ドイツ語が読めないのが残念だが、仕事のスピードとコンプリートさに驚くばかりである。

英国やドイツの書誌情報のすばらしさが分かった。今



フランクフルト・ブックフェア・日本コーナーのAJUPブースとそのシンボルマーク(右)

回、日本からも二つの書誌情報が、日本書籍出版協会から発行され、会場でも展示・販売された。戦後四五間に日本から欧文として発信された書籍のカタログである。たいへんな労力が編集に費やされたそうである。近く雑誌「U

P」にシャモニー教授自らこれについて執筆されるそうである。書誌情報先進国の先生の評価を期待している。

* * *

期間中のある夜、ホテルのパーティー会場は賑わっていた。話題は、いかに良いドイツ語翻訳者を育成していくかに集中した。翻訳基金財団化構想など議論はつきなかつた。国際的な自然的障壁、言語の壁を越えなければ、文化は流れないからである。しかし文化摩擦問題は日本語がバリアーになっている事だけなのか。

大学出版部のアイデンティティとは何か。「科学・技術・医学書」は使用言語を越えて内容のクオリティーが重要である。翻訳に値すると認めた出版者は自ら翻訳交渉にやってくるだろう。逆に「ビジネス書」は、必要な企業が社内翻訳するだろう。また「人文書」は、研究者自らの力で言語にかかわらず読破されるだろう。要は学術専門書の需要度は、それがもつ価値と欲求度と経済性で決まるのである。需要度の低い情報は、言葉のバリアー以前の問題なのである。

最終日の午後、展示された本たちはコペンハーゲンへ、ベルリンへ、ハイデルベルグ大学へ、ハノーファー大学へ、ハインリッヒ・ハイネ大学へ……、それぞれ落ち着き先に旅立った。丸テーブルで一人、軽い昼食にした。午後二時、どこからともなく会場に拍手が流れた。フランクフルトは来年へのスタートを切った。

第九回日韓大学出版部協会 合同セミナーに参加して

加藤 千曼樹
田中 浩
大江 治一郎
（東海大学出版部）
（中央大学出版部）
（東京大学出版部）

第九回日韓大学出版部協会合同セミナーが、一九九〇年十月十二日、十三日の両日古都慶州のコンコルドホテルを会場に開催された。今回は会期がフランクフルト・ブックフェア「日本年」の日程と重複し、協会では正副幹事長はじめ韓国通のメンバーがフランクフルトへ出張したために、日本側の参加は表記の三名のみとなった。韓国側の参加者は、権義武会長（啓明大学校）はじめ三七校五一名で、部長クラスが過半数を占めているようであった。

受付で登録の際に渡された日程表や参加者名簿、部屋割り表などが今回はすべてハングル文字の表記であったのはいささか面食らい、初参加の三名は一抹の不安感を抱かざるを得なかった。会場へ入れば、胸の名札もハングル文字でどこの大学の誰やら見当もつかずとまどううちに、まず権会長が開会挨拶でわれわれを全員に紹介された。ついで加藤が、前年に東京で開催された「世界の大学図書館展」への韓国の出展と琴東信前会長の開会式ご出席に対して礼を述べ、冷戦構造の解体を目的にする中で来るべき新しいアジアの時代に向けて、韓国、中国および日本の大

学出版部相互間の提携と協同活動の重要性を訴えた。

主題発表では、まず江原大学の李光來出版部長が「大
学出版―二〇〇〇年代のための提言」と題して報告を行
なったが、通訳なしで要約もハングル文字のため、われわれ
には残念ながら殆ど理解できなかった。つぎに田中が「大
学出版部の課題と展望」を主題に、日本の大学出版部の誕
生と足跡を概観して英米の大学出版部と対比し、協会の結
成から出版界における位置づけに及ぶ現状を述べて、さら
に今後の日韓大学出版部の共同出版に向けての提言にも触
れた。この発表には日文の報告書と英文の要約を全員に配
布した。なお日本側の発言には、釜山工業大学の金成根
部長に通訳の労をとっていただいた。金部長には釜山空港
の迎えからセミナー終了ま
での間、親身なお世話をいた
だいて韓国初訪問のわれわれ
にはまことに感謝であった。
今回は期間も短く、ことば
やセミナー運営上の問題も
あって、韓国の参加者との十
分な語り合いができなかった
のが心残りであった。しかし
一衣帯水の隣国である韓国と
は「近くて近い国」として理
解し合えないことは決してな
いというのが、われわれの率
直な印象であった。



第9回日韓大学出版部協会合同セミナーで

プリンティングフェア'90を見学して

秋田 公士

(編集部会・法政大学出版局)

編集部会では第12回〈編集者の集い〉として、十月十二日、幕張メッセで開催された日本印刷新聞社主催の総合印刷機材展〈プリンティングフェア'90〉を見学した。

広大な会場狭しと展示された全自動四色機やWYSIWYGの電算写植機、カラー・スキヤナなど、最先端の印刷機器が目をはひいたが、地味ながらDTPのシステムや電子編集ソフトのデモンストレーションも多く、参加者の注目を集めていた。

とりわけ電子編集ソフトは、ハードにPC98やMACを使用するため、さほど費用もかからず、最終的には電算写植機や高DPIのタイプセッターで出力するので品位も高い。まさに中小出版社向けのソフトであるため、腰を据えて熱心に係員の説明を聞く部会員の姿も見られた。

フロッピー渡しでも組版代は安くならないというのが現状だが、文字入力や著者がワープロで、原稿整理・割付は編集者が電子編集システムで、版下出力は出力センターで、という方式が一般的になれば、印刷所もいつまでも強気ではいられないだろう。

すでに一部では実用化されていることではあるが、大学出版部でも、編集者が長年持ちなれた赤ペンをキーボードにかえる日は確実に近づいているようだ。

名古屋地区営業研修会

佐野 雄治

(営業部会・名古屋大学出版会)

営業部会の年間活動の一つに定着した地方研修会を今回は十四出版部・十六名が参加し、関西・九州地区につづき名古屋地区で実施しました。

おりしも、東販の東海地方の流通拠点である小牧営業所では各支店に先がけ、コンピューターを駆使した新システムのテープカットの翌日に当たり、流通のスピード化を図る新システムを見学し、説明をうけました。また、今回説明はありませんでしたが日販においても92年秋には名古屋市内に西日本流通センターをしのぐ王子ハイテクセンターなみの地下一階地上七階の流通センターが完成すると聞いております。

このように、現在業界の最大の課題である客注の遅れを短縮する努力が少しずつ見え始めている東海地方の出版流通状況です。

図書館へは、今回は名古屋大学・南山大学・中部大学に伺い協会の新刊見計い納本・蔵書調査への御理解をお願いしました。その後、南山大学図書館からは91年度中には採用したいという前向きな御回答をいただいております。

スケジュールの都合上、今回訪問できなかった書店・大学図書館、また昨今大学出版部への関心を寄せておられる公共図書館へも今後とも協会の活動に御理解いただくよう努力していきたいと思えます。

北海道大学図書刊行会

■全国でも北大にのみ継承されてきた「森林美学」と題する講義がある。単なる「木材」の集積としてではなく、人間にとって不可欠の美的対象として森林を取扱うことをその眼目としている。この講義のいわば遺産ともいべき同名の書を、この度覆刻した。原著は大正七年に出版されたもので、菊判七百頁を

大学出版部 ニュース

産能大学出版部

一月末に発売した『経営幹部の全社戦略』が三〇〇〇円という定価にもかかわらず好調な売行きを示している。本書は、元「ビジネスレビュー」誌の編集長で、ハーバード大学名誉教授のK・アンドルー博士の著書で、訳者は中村元一（西東京科学大学教授、黒田哲彦大東文化大学教授）である。ハーバード大学

越える大著。七十年ぶりの覆刻である。荒唐著しい現在の日本に森林の美しさを甦らすために一読すべき古典であろう。■札幌農学校の遊戯会が、近代的な意味での日本陸上競技の濫觴であることはよく知られている。

明治十一年に始まったこの遊戯会から現代に至る北大陸上競技百年の歩みが、独りの篤志家の手で上梓された。B5判千二百頁を越えるその重みは人の一念の強さを思わせるものがある。

経営大学院の教科書として、また、アメリカで戦略経営の名著として知られ、マッキンゼー優秀図書賞も受けている。同じく一月刊の『洞察と止揚』は、東邦薬品社長・松谷義範が体系性と整合性を求め続けた経営哲学を、最良の理解者・西尾久雄がまとめたものである。範をモニターニューの「エッセー」ととり、現実の事業経営の中で思索し続けた松谷哲学のエキスを抜き出したものである。

慶應通信

〈新刊案内〉『精神薄弱児の保健』／小村欣司著（横浜国立大学教授）・A5判・一七〇頁・定価二〇〇〇円税込／本書は精神薄弱児の心身の発育や機能の発達の特徴をふまえてその起りやすい健康上の問題に対処するための多くの的確なヒントを与えています。障害児の教育にかかわる教師や父母の方々の手頃な

手引書としておすすめます。筆者は「健康教育学」専攻。〈月刊「教育と医学」誌より〉本紙は教育に携わる方々に好適な事典的資料となっています。本年前半の特集名は下記のとおりです。1月・現代の思春期危機／2月・これからの子育て／3月・新保育指針をめぐって／4月・なぜ今、医療人類学か／5月・カウンセリングと教育／6月・慢性疾患と学校生活指導（目録送呈します。在庫完備）

玉川大学出版部

◆R・セール著／定松正訳『フアンタジーの伝統』三九一四円 全体にその作品のおもしろさを見ていねいに跡づけており、その過程は、フランク・ボームの「オズの魔法つかい」シリーズに共通する旅の感覚―自己からも解放される旅の途上の幸福感と著者がいうその気分が、子どもの本を旅するこの本にもあるよう

だ。読売新聞評

◆白石克己著『生涯学習と通信教育』二四七二円 教育といえば通学形式が主だったが、このままでは施設・設備に限界がある。これに代わる生涯学習の方法として著者は「通信教育」を提唱する。本居宣長の郵便による教授など、日本でも古くから通信教育は力を発揮してきた。著者の経験を基にテキストによる方式を提案している。日本経済新聞評

中央大学出版部

『ソ連経済と流通—マーケティ
ングと経済発展』 ロジャー・
スクルスキ／酒井正三郎・建部
正義・横倉弘行・佐藤智秋訳
流通機構の立ち遅れの実態を
実証的に分析し物不足に代表さ
れる経済危機を科学的に解明し
て経済発展戦略の抜本的刷新の
必要性を追究。定価二〇六〇円
『ケルト 伝統と民俗の想像力』

大学出版部ニュース

東京大学出版会

小会の創立四〇周年を記念し
て『英米法辞典』(田中英夫編
集代表、菊判、本文8ポ二段
組、一〇五〇頁、定価一五四五
〇円)が刊行される。

国際化時代の要請に応える本
格的な英米法辞典として、法学
分野の研究者・学生・実務家だ
けでなく、英米の文化や社会を
理解し、英米法系の諸国を相手

中央大学人文科学研究所編
古代のドルイドから現代のジ
ングにいたるまで、ケルト文化

とその稟質を、文学・宗教・芸
術などのさまざまな視野から説
き語る。 定価四二一〇円
『西ドイツにおける自治団体』
H・U・エーリヒゼン／中西

又三編訳

市民主体の自治行政組織・規
模・経済活動をえぐる本書は、
我国の地方自治制度のあるべき
方向を示唆。 定価一六四八円

に仕事をする企業や官公庁のス
タッフにも役立つことを願った
企画で、五二名の執筆陣による
長期の徹底した相互校閲・クロ
スレファレンスが行われた。

項目数は一三〇〇〇を数える
小項目主義で、簡潔・明快な説
明を心がけ、人名項目や和英法
律用語索引、さらには英米の行
政などの基本的データを付録と
して充実をはかり、本格的な辞
典としての満を持している。
五月一〇日発売である。

東海大学出版会

大地原豊先生の計報が届い
た。一日置いて『宰相ラーク
リヤサの印章—古典サンスク
リット陰謀劇』(四六判、二一
八頁、定価二五七五円)の再校
ゲラが戻ってきた。病院のベッ
ドで早朝から始めた校正を十二
時前に済ませ、昼食をとってそ
の十分後には天国へ旅立ったそ
うである。複雑な心境だが葬儀

東京電機大学出版局

天良和男『知的実験ツールとし
てのパソコン活用』

CAIは広義では、コンピュ
ータを利用した教育のすべてを
意味しているが、狭義にはコン
ピュータを利用した個別学習を
意味している。これに対し、最
近、コンピュータを道具として
活用する教育法が高校・大学の
教育現場で注目されている。

にも行けない。文部省刊行助成
図書『訓読説文解字注(竹冊)』
(尾崎雄二郎編、A5判、一一

九〇頁、東海大学古典叢書)の
下版が控えている。大地原家に
事情を説明して、三月十六日の
大地原先生の誕生日までに新刊
を持ってお伺いすることとし
た。それまでには『伊勢物語』
(福井貞助解題、A4判、五六
二頁、定価二五七五〇円、桃園
文庫影印叢書)も一段落してい
る筈だ。(M)

本書はこのツールとしての活
用にスポットをあてたもので、
「長年、物理教育の研究・実践
を積んできた著者が、コン
ピュータの活用、特にコン
ピュータの実験計測について実

践に基づき、ていねいに説明し
ており、教育のより魅力的な実
験書としても、知的ツールとし
てのコンピュータ活用の研究書
としても、大いに役立つものと
思われる」(科学新聞書評より)
B5・定価二九八七円(税込)

東京農業大学出版会

『東京農業大学創立一〇〇周年記念懸賞論文集 高校の部』
創立一〇〇周年を迎えた東京

農業大学は、その記念事業としていろんなイベントを企画・実施している。本書もその一環として、全国の高校生を対象に論文を募集したものである。

懸賞論文のテーマは、環境、食糧と健康、エネルギー、農業

大学出版部ニュース

法政大学出版局

J・クリステヴァ／池田和子訳
『外国人』四六判・二七八一円

▼平明で、情熱的な本だ。：内側から「外国人」を追究したこの本は、原理の書でありながらも、いさぐ、役に立つ。読売新聞

▼死という他者、女性という他者、抑えがたい衝動という他者、まさしく「外人は我々自身の中にある」：池内紀氏・毎日新聞

の五分野に限定している。応募された五七四篇の中から優秀論文として選ばれた一〇篇が収録されている。

本書からは、次の世代を担う若人たちが、現在の環境破壊、地球汚染、食料生産、そして日本農業をどのように認識し、将来の展望として何を求めているのか、等を知ることができる。

記念事業の出版関係では、百年誌のほか「市民講座」の論文集等の編纂が進められている。

▼外人がどのように思考されてきたか、どのように受容あるいは排斥されてきたかを思想的に考察：山下悦子氏・産経新聞

▼類書のなかでも際立って説得力あるものになっている。：精神分析医ならではの異色の他者論：芳川泰久氏・日本経済新聞

▼社会契約による国家観や、自然法にのっとった人権概念にまるで鈍感な日本人こそ、本書を読むべき民族かも知れない。：上垣外憲一氏・朝日ジャーナル

東京理科大学出版会

月刊誌「SUT」は、理科大の英文名の頭文字で、理科大における中堅研究者の諸先生の熱心なる編集にかかり、卒業生の業績をも紹介し、学生にはその進むべき方向に多く示唆を与えるべく苦心している。最近号の中から、その主な特集記事を拾ってみる。

・わが国の理工学高等教育

・就職幹事座談会

・大学生活を振り返る

・企業が求める人間像

・大学院幹事座談会

・物理学のすすめの座談会

・工学部の歩み（歴代学部長）

・教職への案内と今後の方針

・理科大卒の高校長座談会

・理事長と学長の対談

・これからのコンピュータ教育

・これからのコンピュータ教育

その2

年間購読料一 二巻五一五〇円

放送大学教育振興会

◆陽春三月、新刊六十九点と重版七十数点を無事にいっせいで刊行。学生数の累増に伴う多様な学習要望にこたえるために、時代の流れを先取りしたユニークなものが増えている◆たとえば『食と栄養の生態学』（鈴木継美編著）『現代家族の社会学』（森岡清美著）『教育工学』（坂元昂著）『心の環境健康科学』（織

田尚生編著）『環境とエネルギー工学』（牛山 泉著）『生徒指導の理論』（武藤孝典編著）『改訂版・現代の国際政治』（神谷不二・高橋和夫編著）『標本抽出の計画と方法』（鈴木達三・高橋宏一共著）……。詳しくは本号「新刊案内」（20頁22ページ）をどうぞ◆当会発行図書を教科書に採用する大学・短大等も年々増加、今年も百数十校になりそう。ビデオ・オーディオ教材も順調に点数を伸ばしている。

明星大学出版部

出版部は、戦後教育史研究センターと協力して、日米双方の資料を体系的に発行する占領教育史シリーズとして、今回、対独アメリカ教育使節団報告書翻訳検討委員会『対独アメリカ教育使節団報告書』を出版した。本書は、対独アメリカ教育使節団の成立経緯および同報告書の性格と位置づけに関する解

説2篇ならびに、付録、報告書原文から成り立っている。同報告書の翻訳は、対独占領教育政策史上に占める意義が極めて大きく、占領期教育政策の研究書として注目される。

曾我英彦『倫理学の無知』倫理学書というところ、とかく敬遠されがちであるが、本書は、倫理学というより、むしろ人間に関心を持つ人びとに、若干の資料を提供することを目的に書かれた入門書である。

早稲田大学出版部

▼『エイジング大事典』(G・マドックス編、同大事典刊行委員会監訳、定価一八五四〇円) 加

齢(エイジング)が心と体にもたらす様々な事象を総合的にとらえた百科事典。四三九項目の基本的用語を解説する。日本語版独自の索引を完備。増刷出来。

▼『朝河貫一書簡集』(同書簡編集委員会編、定価二五〇〇〇円)

今世紀前半にアメリカで活躍した歴史家の書簡約三〇〇通を収録する。第二次大戦へ突き進む状況に警鐘を鳴らし続けた姿勢は、今日の日本のあり方を考える際に大いに役立つだろう。

▼『源氏物語資料影印集成』/全12巻(中野幸一編、定価各一五四五〇円)が完結した。源氏物語研究に不可欠の古注・梗概・俗訳・評論・辞書などの文献を収める。この機会に、セットでのご購入をおすすめする。

大学出版部 ニュース

名古屋大学出版会

▼山田公平著『近代日本の国民国家と地方自治—比較史研究』(定価五六五円) 十九世紀後半の国際条件の中でわが国の国民国家の構築は天皇制国家として実現された。本書は、その政治的基礎構造たる明治期地方自治を、同時代のヨーロッパ諸国、朝鮮、台湾等の制度状況との比較において検討する。

▼田中秀夫著『スコットランド啓蒙思想史研究—文明社会と国制』(定価五一五〇円) 時代の課題としての文明社会論と国制論を焦点に、スコットランド啓蒙運動を歴史内在的に考察。スコットランド啓蒙思想復権の書。

▼E・カッシーラー著・蘭田坦訳『個と宇宙—ルネサンス精神史』(定価三六〇五円) 二〇世紀哲学の巨匠が個性的統一体としてのルネサンス哲学の全体像を透徹した筆致で描き出す。

京都大学学術出版会

▼昨年十二月に設立第一冊を刊行しました。平田守衛編著『黒田麴廬と「漂流紀事」』(定価七五〇〇円) 幕末の知られざる蘭学者黒田麴廬は、独仏蘭語、ギリシヤ・ラテン語に通じ、約二〇種の著訳述(刊行されたもの二十数点)を残した。又『リグ・ヴェーダ』をも翻訳し、福沢諭吉をして「天下に畏るべき

男は臆所の黒田だ」といわしめた幕末随一の西洋通である。その黒田が一八五〇年頃、西洋文学の翻訳としては最初の翻訳であるD・デフォーの『ロビンソン・クルソー』の蘭訳原書から翻訳した『漂流紀事』の朱入草稿・写本・翻刻・伝記・研究の全てを網羅した七〇〇頁余の大書。幕末史に変更を迫る好著であり、資料である。▼本年四月よりは、月一点のペリスで刊行を予定しております。

大阪経済法科大学出版部

◇村川行弘・小林博編『古代の河内』（本年四月刊行予定）

古代に光芒を放った河内についての歴史的・地理的考察。

◇上林貞治郎『戦争と平和—十五年戦争の黙示録』（本年八月刊行予定）

反戦・非戦・厭戦の側面から侵略戦争を告発。

◇大阪経済法科大学アジア研究所編『間島総領事館関係資料・

大学出版部ニュース

九州大学出版会

▼朝日新聞91・1・31現代人物誌、具島兼三郎—獄中で書いたわが昭和史—より。「…自著『どんだのたたかい』（九大出版会）に書いたこの話が、『永遠の懐念』の題名で中国語に翻訳される。台湾から一人の客が、当時長崎大学長だった具島さんを訪ねて来た。三十数年前の獄中の青年、梁蘭戎・立法院

広東総領事館関係資料・鉄嶺領事館関係資料』

総領事館書記生により収集された満州事変前夜の外交機密文書で本学の所蔵するもの。長く公刊が望まれていた。

◇『東アジアの社会と経済』国際学術シンポジウム報告書（本年二月刊行）

経済発展と経済交流、東アジア諸国の労働問題、稲作農耕の始源と展開、の三部よりなる。

長（日本でいう衆院議長）だった。『昭和史を学ぶ会』『現代史を学ぶ会』といった具島さんを囲む市民の勉強会が、北九州、福岡市などで開かれ、六、七年続く。マイク要らずの大音声、豊かな表情、がっしりした体は、とても八十五歳の学究とは思えない。具島兼三郎の著書三点話題再燃。①『どんだのたたかい—わたしの満鉄時代—』、②『奔流—わたしの歩いた道—』、③『文明への脱皮—明治初期日本の寸描—』。

関西大学出版部

▼高森八四郎著『法律行為論上の基本的諸問題』（定価六〇〇〇円）は「無能力者の詐術」「意思表示における錯誤」「無権代理と相続」「無効・取消・解除と原状回復義務」など、法律行為論上の重要問題を著者独自の視点で的確に分析解明した。徹底的に事案を重視する判例研究の方法論に基づき、問題点の理

論的深化を図った力作として、研究者・実務家ともに必読の書。▼田宮武者『新聞記事からみた水平社運動』（定価九六〇〇円）は新聞記事を丹念に収集整理し、大正十一年から昭和十五年までの全国の水平社運動の足跡をたどった資料集。部落差別からの完全解放をめざした指導者や部落大衆の熱気と苦悩が伝わる。図書館・研究者必携の基本文献。解説と詳細な索引つき。

新刊案内 '90・10 / '91・3

(表示価格は税込価格です)

■北海道大学図書刊行会

大沼・松井・鈴木・山田編 二四七二円

北海道経済図説 牛山敬二・七戸長生編 六一八〇円

北大陸上競技史 佐藤 幸雄 一五四五〇円

北欧語入門 ウォルシュ著／藪下 紘一訳 三六〇五円

森林美学〔覆刻版〕 新島 善直・村山 醸造 九七八五円

虫たちの越冬戦略―昆虫はどうやって寒さに耐えるか 朝比奈 英三 一六四八円

師範学校制度史研究―15年戦争下の教師教育 逸見 勝亮 六一八〇円

がんとともに 小林 博 九二七円

■慶應通信 日本倫理学会編 三〇九〇円

規範の基礎へ日本倫理学会論集25 白井 厚監修 二八八四円

慶應義塾消費組合史 原 栄吉 三〇〇〇円

適応の勧め―日本外交史潮とその選択― 関根 徳男 一五〇〇円

通信教育日記 寺尾 誠編 三五〇〇円

温故知新―歴史・思想・社会論集― 霞 信彦 七二一〇円

明治初期刑法法の基礎的研究へ慶應義塾大学法学研究会叢書50 慶應義塾大学法学部法律学科開設百年記念論文集 慶應義塾大学法学部法律学科開設百年記念論文集 一五五〇円

慶應義塾大学法学部法律学科開設百年記念論文集 法律学科編 一五五〇円

慶應義塾大学法学部法律学科開設百年記念論文集 三田法曹会編 一五五〇円

慶應義塾大学法学部法律学科開設百年記念論文集 高鳥 正夫 三二九六円

新刊 会社法

正論自由 第八巻―アメリカは世界のナンバーワン―

精神薄弱児の保健 中村 勝範 一九〇〇円

産能大学出版部 小村 欣司 二〇〇〇円

できるできる、あなたもきつとできる 越智 宏倫 一三八〇円

もっと楽しく管理して、仕事を思うままに動かしてみたら 横山 博文 一三八〇円

仕事の未来学 21世紀の人事思想を探る研究会編 一五〇〇円

戦略営業マネジャー70の要点 マネジメントエンジニアリング研究所編著 一五〇〇円

感性で人を動かす 国司 義彦 一三八〇円

N I E S ・ A S E A N ビジネス最前線 増田 辰弘 一六〇〇円

1・2・3会計 谷田英男／谷田浩志 二六〇〇円

0 (ゼロ) 日本文化の根源 山田 理英 二五〇〇円

21世紀のリーダーシップ ピーター・ブロック著 安藤嘉昭訳 二八〇〇円

税金対策のすべて 東 勇幸 一六〇〇円

人の壁・文化の壁に挑む起業家精神 浜脇 洋二 一五〇〇円

経営幹部の全社戦略 ケネス・アンドルーズ著 中村元一／黒田哲彦訳 三〇〇〇円

どうしたら「たくましさ」を育てられるか 小西 重康 一五〇〇円

洞察と止揚と 西勝 久雄 二〇〇〇円

お客さまを満足させる本 川勝 久 一六〇〇円

ストレス社会の心の健康 東 勇幸 一五〇〇円

大局観発想法 金子 達也 一八〇〇円

企業とデザインシステムC3巻 ココマス委員会編著 一二〇〇〇円

営業マンのOJT、すべてがわかる本 内藤 和美 一三八〇円
 タグチメソッド 田口玄一／矢野 宏 二〇〇〇円
 M&A成功戦略 T・クック著 原田行男／小林通訳 三八〇〇円

■玉川大学出版部

ファンタジーの伝統 R・セール／定松正訳 三九一四円
 幼児教育の思想 荘司 雅子 三九一四円
 生涯学習と通信教育 白石 克己 二四七二円
 いま、ペスタロッチーを読む 村井 実 一八五四円
 激動の国際社会と経済へ玉川学園教養シリーズ(8) 小原哲郎編 一五四五円
 国際社会と日本へ玉川学園教養シリーズ(9) 小原哲郎編 一五四五円
 ペスタロッチーの人間像 小原哲郎編 一五四五円

■中央大学出版部

多摩の伝統技芸1 下島 彬 一八五四円
 多摩の伝統技芸2 下島 彬 一八五四円
 国際企業法の諸相 B・グロスフェルト／山内惟介訳 四一二〇円
 ケインズ経済学の再検討 中央大学経済研究所編 二六七八円
 西ドイツにおける自治団体 H・U・エーリヒゼン／中西又三編訳 一六四八円
 フランスの裁判法制 小島武司他編 二九八七円
 経営戦略と組織の国際比較 中央大学企業研究所編 二七八一円

ソ連経済と流通―マーケティングと経済発展―
 ロジャー・スクルスキ／酒井正三郎・建部正義
 横倉弘行・佐藤智秋訳 二〇六〇円
 ケルト 伝統と民俗の想像力
 中央大学人文科学研究所編 四一二〇円

■東海大学出版会

行動生態学入門 粕谷 英一 三九一四円
 凶鑑 海底の鉱物資源 東海大学 CORMC 調査団編 八二四〇円
 比較政治学の理論へ現代の政治学シリーズ(2) 砂田一郎・薮野祐三編 三二九六円
 天敵の生態学 桐谷小治・志賀正和編 二八八四円
 源氏小鏡・源氏抄へ桃園文庫影印叢書 寺本直彦解題 二五七五〇円

行動研究入門

行動研究入門 P・マーティン他／粕谷・近・細馬訳 二二六九円
 超音波診断要覧I 基礎・資料編 東海大学病院超音波検査室編 三六〇五円

マトリクスと連立一次方程式

マトリクスと連立一次方程式へ工学のためのマトリクス① 町田・川上・高橋・村田 二六七八円
 マトリクスの固有値と対角比へ工学のためのマトリクス② 町田・駒崎・松浦 二六七八円
 マトリクスとシステムへ工学のためのマトリクス③ 小島・矢沢・本間 二六七八円

ファイアーエコロジ

ファイアーエコロジ 飯泉 茂編 三〇九〇円
 古今和歌集へ桃園文庫影印叢書 村瀬敏夫解題 二〇六〇〇円
 体育・スポーツ事故(1980~89年)地域編 野間口英敏 二二六九円
 体育・スポーツ事故(1980~89年)学校編 野間口英敏 三六〇五円
 訓読説文解字注 竹冊 尾崎雄二郎編 三四八四円
 宰相ラークンヤサの印章―古典サンスクリット陰謀劇― 尾崎雄二郎編 三四八四円

超音波診断要覧IV

超音波診断要覧IV 産婦人科編 ヴイシヤールカダッタ／大地原豊訳 二五七五円

東海大学病院超音波検査室編
固体の電子論(パインズ固体物理学③) 五五六二円

G・パインズ/長尾・米沢・澤田・小島・中村訳
動物園見学ハンドブック 三六〇五円

システム工学の基礎 堀田 進 一五四五円

高齡化社会の諸問題 定方 希夫 二六七八円

Auto CAD 活用ガイド 立山龍彦編 二五七五円

ASTRON 加藤 直孝 二五七五円

作花 一志 一二三六〇円

■東京大学出版会
古代和歌史論 鈴木日出男 一八五四〇円

文化のなかの子ども(シリーズ人間の発達6) 箕浦 康子 二〇六〇円

政策過程(現代政治学叢書11) 大嶽 秀夫 二〇六〇円

概説 現代日本の政治 阿部斉・新藤宗幸・川人貞史 二五七五円

脳の進化 エックルス/伊藤正男訳 三〇九〇円

メダカの生物学 江上信雄・山上健次郎・嶋昭紘編 六一八〇円

帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編7 国立国会図書館所蔵 一二三六〇円

帝国議会衆議院委員会議録・昭和編7 国立国会図書館所蔵 一二三六〇円

大日本史料 第三編之十四 東京大学史料編纂所編 一六四八〇円

大日本史料 第三編之十五 東京大学史料編纂所編 八二四〇円

大日本史料 第三編之十六 東京大学史料編纂所編 八二四〇円

農学・生物学のためのコンピュータ入門 上村賢治・関本年彦・高野泰 二八八四円

発生・分化の遺伝子的背景 江口吾朗・鈴木義昭・名取俊二編 四六三五円

微生物生態入門(第2版)(UPバイオロジー32) 服部 勉 一六四八円

帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編8 国立国会図書館所蔵 一二三六〇円

帝国議会衆議院委員会議録・昭和編8 国立国会図書館所蔵 一六四八〇円

大日本史料 第三編之十七 国立国会図書館所蔵 一六四八〇円

大日本史料 第三編之十八 東京大学史料編纂所編 八二四〇円

大日本史料 第三編之十九 東京大学史料編纂所編 八二四〇円

経済学のための最適化理論入門 西村 清彦 二五七五円

マス・コミュニケーションの社会学理論(現代社会学叢書16) 竹内 郁郎 四九四四円

米国カリキュラム改造史研究 内藤 豊 七七二五円

単細胞動物の行動(UPバイオロジー85) 佐藤 学 七七二五円

帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編9 国立国会図書館所蔵 一六四八円

帝国議会衆議院委員会議録・昭和編9 国立国会図書館所蔵 一二三六〇円

大日本史料 第三編之二十 国立国会図書館所蔵 一六四八〇円

大日本史料 第三編之二十一 東京大学史料編纂所編 八二四〇円

環境(東京大学公開講座52) 有馬朗人編集代表 二二六六円

現代社会と階級(現代社会学叢書17) 濱嶋 朗 五三五六円

トクヴェール研究 松本 礼二 四九四四円

日本の労働争議 一九四五〜八〇年 労働争議史研究会編 九四七六円

水生生物学 山口勝己編 三九一四円

集団の進化(UPバイオロジー86) 北川 修 一四四二円

表面分析の基礎と応用 山科俊郎・福田伸 三六〇五円
 画像解析ハンドブック 高木幹雄・下田陽久監修 二五七五〇円
 帝国議会貴族院委員会速記録・昭和編10 国立国会図書館所蔵 一三三六〇円
 マムルーク 史料 教養の日本史 佐藤 次高 二四七二円

帝国議会衆議院委員会議録・昭和編10 国立国会図書館所蔵 一三三六〇円
 日本経済史〔第2版〕 竹内誠・佐藤和彦・君島和彦・木村茂光編 二〇六〇円
 心の計算理論へ認知科学選書19 石井 寛治 二四七二円
 世界経済論へ大内力経済学大系6 大内 彰文 二二六六円
 新しい消費者分析 片平 秀貴 九八八八円
 Pascalによる算法通論 片平 秀貴 三九一四円

大日本史料 第四編之二 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円
 近代日本法制史料集十二 パテルノストロ答議二 一三三九〇円
 微分幾何入門 上へ基礎数学9 森口繁一・伊理正夫・武市正人編 二〇六〇円
 応用空気力学 落合卓四郎 二五七五円
 サンゴの生物学へUPバイオロジー87 相原康彦・森下悦生 三七〇八円
 偏微分方程式の数値シミュレーション 山里 清 一六四八円
 登坂宜好・大西和榮 三六〇五円

ウイトゲンシュタイン以後 国学院大学日本文化研究所編 五一五〇円
 飯田隆・土屋俊編 四三二六円
 福井 勝義 二四七二円
 池田謙一・村田光二 二五七五円
 三宅和夫編 五六六五円
 小林 良彰 二四七二円
 平島 健司 五三五六円
 坪井 善明 六五九二円
 本田実信 一八五四〇円

現代日本の選挙 ワイマール共和国の崩壊 池田謙一・村田光二 二五七五円
 近代ヴェトナム政治社会史 モンゴル時代史研究 三輪芳朗・西村清彦編 三九一四円
 日本の流通 大河内暁男 二五七五円
 経営史講義 寺崎昌男・竹中暉雄・樽松かほる 七四一六円
 御雇教師ハウスクネヒトの研究 若松 佑子 二八八四円
 分子生物学実験教育 谷山 鉄郎 二八八四円
 地球環境保全概論 活断層研究会編 三六〇五〇円
 新編 日本の活断層 国立国会図書館所蔵 一三三六〇円

帝国議会衆議院委員会速記録・昭和編11 国立国会図書館所蔵 一三三六〇円
 大日本史料 第四編之三 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円
 大日本史料 第四編之四 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円
 大日本史料 第四編之五 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円
 大日本史料 第四編之六 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円
 Cardiomypathy Update 3 E・G・J・オルセン 二〇六〇円
 China Memoirs O・ラティミア／磯野富士子編 四六三五円
 The Japanese Economy 小宮隆太郎 六六九五円
 Cerebral Vasospasm 佐野圭可ほか編 二〇六〇円
 Theoretical and Applied Mechanics, Vol.39 橋本英典編集代表 一八五四〇円

帝国議会衆議院委員会議録・昭和編11 国立国会図書館所蔵 一三三六〇円
 Skill Formation in Japan and Southeast Asia 小池和男・猪木武徳編 五九九四円
 Basic Technical Japanese E・E・タウブほか 七七二五円
 Technological Competition and Interdependence G・ハイドゥック・K・ヤムムラ編 七〇〇四円

大日本史料 第四編之三 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円
 大日本史料 第四編之四 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円

大日本史料 第四編之三 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円
 大日本史料 第四編之四 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円

大日本史料 第四編之三 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円
 大日本史料 第四編之四 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円

大日本史料 第四編之三 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円
 大日本史料 第四編之四 東京大学史料編纂所編 一三三九〇円

Geology of Japan 木村敏雄・速水格・吉田鎮男 一〇三〇〇円
Methods and Applications in Mental Health Surveys
鈴木庄亮・R・E・ロバーツ編 九二七〇円

■東京電機大学出版局
高周波の基礎と応用——時代を支えるキーテクノロジ—
高橋勸次郎監修 三六〇五円

ヒューリスティックCプログラミング—アドバンスコース—
黒田 康太 二四〇〇円

知的実験ツールとしてのパソコン活用

—ハード・ソフト・センサ技術 天良 和男 二九八七円
第二種情報処理試験全問題解答集〔'91春季版〕 二五七五円

電波法規 1・2 陸技の徹底研究 吉川 忠久 一五四五円
電気設備技術基準 平成2年改正 改正・色刷 八〇〇円

2訂版 電気法規と電気施設管理 竹野 正二 二二六六円
ビギナーズ FORTRANプログラミング 若山芳三郎 二〇六〇円

自動車整備の基礎Ⅲ シャン編 二〇六〇円
入戸野・吉澤・吉成・渡辺 二九八七円

ハイテク選書 地球にやさしいソーラーカー 藤中 正治 一五五〇円

■東京農業大学出版会
無機化学実験書 東京農業大学農学部農芸化学科編 一二〇〇円

東京農業大学創立一〇〇周年記念懸賞論文集高校の部 五〇〇円
東京農業大学創立百周年記念懸賞論文実行委員会編

■東京理科大学出版会

■法政大学出版局

トマス・ペイン—社会思想家の生涯—

機械状無意識—スキゾ分析— A・J・エイヤー／大熊昭信訳 三六〇五円

翻訳〈ヘルメスⅢ〉 M・セール／豊田彰・輪田裕訳 四一二〇円
外国人—我らの内なるもの— J・クリステヴァ／池田和子訳 二七八一円

過去からの警告 E・シャルガフ／山本尤・内藤道夫訳 二八八四円

海洋の人類誌 T・ヘイエルダール／国分直一・木村伸義訳 四九四四円

ひよどり嵐の海 聖なる真理の破壊 H・ブルーム／山形和美訳 三三九九円

面・表面・界面 F・ダグニエ／金森修・今野喜和人訳 三三九九円

社会主義か野蠻か C・カストリアディス／江口 幹訳 三九一四円

遍歴—法、形式、出来事— J・F・リオタール／小野康男訳 一九五七円

ジャズ—熱い混血の音楽— W・サージェント／湯川 新訳 二八八四円

水の法と社会—治水・利水から保水・親水へ— 森 實 五九七四円

◎日本生命財団出版助成図書 われらのヨーロッパ—その文化的歴史的連続性— F・ヘル／杉浦健之訳 五六六五円

分布〈ヘルメスⅤ〉 M・セール／豊田 彰訳 三九一四円

裸体とはじらいの文化史—文明化の過程の神話— H・P・デュル／藤代幸一・三谷尚子訳 四四二九円

親と子の交流分析—心のふれあいを求めて— 水谷大二郎 一三三九円

中国経済の新局面—改革の軌跡と展望— 法政大学比較経済研究所／山内一男・菊池道樹編 三〇九〇円

南九州の民俗文化 小野 重朗 六九〇円
世界としての夢—夢の存在論と現象学— D・v・ウスラー／谷 徹訳 四九四四円

惑星軌道論 G・W・F・ヘーゲル／村上恭一訳 二四七二円
ナチズムと私の生活—仙台からの告発— K・レーヴィット／秋間 実訳 二九八七円

ペンヤミン—シヨールム往復書簡—一九三三—一九四〇— G・シヨールム編／山本 尤訳 三九一四円
藍(あい)—風土が生んだ色— 竹内 淳子 二八八四円

経済学入門(第2版) アーサー王の死—トマス・マロリーの作品構造と文体— 遠藤 茂雄 二〇六〇円
雑誌・同時代・56号—小特集・水のイマージュ— 四宮 満 一八五四円

わが国の現代インフレーション 黒の会編 一〇三〇円
地方産業の振興と地域形成—その思想と運動— 原 薫 七〇〇四円

徳川封建経済の貨幣的機構 太田 一郎 二五七五円
ソヴェト的生産様式の成立 吉川 光治 一七八七五円

イマヌエル・カント O・ヘッフエ／藪木栄夫訳 五六六五円
アメリカのサムライ—L・L・ジェーンズ大尉と日本— 三五〇二円
F・G・ノートヘルファー／飛鳥井雅道訳 三九一四円

地球の誕生—空間と時間と想像力のうた— D・E・フィッシャー／中島龍三訳 二九八七円
日本丸木舟の研究 川崎 晃稔 一三三九〇円

ヨーロッパの日記 G・R・ホッケ／石丸昭二・柴田斎・信岡資生訳 九九九一円
ヨロップバの日記 九九九一円

海陸道順達日記—佐渡廻船商人の西国見聞記— G・R・ホッケ／石丸昭二・柴田斎・信岡資生訳 九九九一円
◎日本生命財団出版助成図書 佐藤利夫編 一三三六〇円
雑誌・哲学・41号—特集・社会哲学の課題と展望— 一三三六〇円

統計法規と統計体系 日本哲学会編 一五四五円
世論調査と政党支持 森 博美 四四二九円
松本 正生 一二一五四円

■放送大学教育振興会(○印ビデオ・ソフト)
食と栄養の生態学 鈴木 継美編著 一六五〇円
家政原論—家庭生活の現代的課題— 酒井 豊子編著 一七五〇円

家族関係論 望月 嵩著 一七五〇円
現代家族の社会学 森岡 清美著 一七五〇円
衣生活の科学 酒井 豊子編著 一九六〇円

子どもの心身機能の発達と障害 帆足 英一編著 一七五〇円
母子健康科学—すこやかなマタニティのために— 古谷 博編著 二六八〇円

母子健康科学Ⅱ—乳児と幼児の健康のために— 古谷 博・川崎 富作編著 一七五〇円
心の生涯健康科学 岡田 康伸編著 一六五〇円

心環境健康科学 織田 尚生編著 一七五〇円
社会福祉 仲村 優一著 一九六〇円
高齢者の福祉 山下袈裟男編著 二一六〇円

教育の方法 吉田 章宏著 二二七〇円
教育の歴史—日本における教育の歩みを中心に— 石川松太郎編著 一九六〇円

言葉と教育 福沢 周亮著 一七五〇円
道徳教育 木原 孝博著 二二七〇円
教育評価(改訂版) 肥田野 直編著 一八五〇円

地域社会学 岡崎 友典編著 二一六〇円
教育学 坂元 昂著 二二七〇円
人間関係論(改訂版) 三隅二不二編著 一九六〇円

パーソナリティ論 佐治 守夫・飯長喜一郎編著 二一六〇円
臨床心理学(改訂版) 村瀬 孝雄編著 一七五〇円
深層心理学(改訂版) 織田 尚生著 一三四〇円

生徒指導の理論	武藤 孝典編著	一七五〇円	アメリカ編Ⅱ・中南米	恒川 恵一編著	一七五〇円
子供観	館 昭・広瀬 洋子共著	二四〇〇円	民族音楽学	徳丸 吉彦著	一七五〇円
財政学	貝塚 啓明著	二四〇〇円	西洋古代中世哲学史	C・リーゼンフーバー著	二〇六〇円
金融論	貝塚 啓明・岩田規久男共著	二四〇〇円	現代哲学—英米哲学研究—	渡邊二郎著	二四七〇円
商法Ⅰ—総則・商行為法・手形法等—	関 俊彦著	二四〇〇円	博物館学Ⅱ—博物館の仕事—		
商法Ⅱ—会社法—	関 俊彦著	二四〇〇円			
現代日本法の特質	碧海 純一編著	一六五〇円	相対論	大塚 和義・矢島 國雄編著	一九六〇円
経済法—市場の維持と補完の法—	松下 満雄著	一九六〇円	歴史から見た代数学	戸田 盛和著	一三四〇円
労働法	下井 隆史著	一九六〇円	応用数学	足立 恒雄著	二四〇〇円
現代の政治過程	阿部 齊著	一六五〇円	標準抽出の計画と方法	藤田 宏著	二〇六〇円
現代の国際政治 (改訂版)	神谷不二・高橋和夫編著	一六五〇円	物質の科学・化学基礎	田丸 謙二編著	二二七〇円
欧米経済史 (改訂版)	関口 尚志・梅津 順一共著	一九六〇円	物質の化学・反応と構造	田丸 謙二編著	二二七〇円
経営組織論 (改訂版)	森本 三男著	一六五〇円	動物の進化 (改訂版)	丸山 工作編著	二一六〇円
管理経済学	黒澤 一清編著	二五八〇円	植物と菌の系統と進化 (改訂版)	西田 誠編著	一九六〇円
財務管理	村松 司叙・古川 浩一共著	一三四〇円	太陽系の化学 (改訂版)	小尾信彌・吉岡一男共著	一七五〇円
交通と通信 (改訂版)	岡野 行秀・南部 鶴彦共著	一七五〇円	固体地球 (改訂新版)	奈須 紀幸著	二二七〇円
現代社会とサービス経済	磯部浩一・古郡鞆子共著	一七五〇円	日本列島の地球科学	奈須 紀幸・濱田 隆土共著	二二七〇円
情報工学 (改訂版)	都倉 信樹著	二七八〇円	宇宙像の変遷 (改訂版)	村上陽一郎著	一七五〇円
物質工学の世界	瀧口 利夫・東 千秋編著	二二七〇円	○メディア・ミックスの授業—高校1年・社会科(約45分)		
環境とエネルギー工学	牛山 泉著	一九六〇円	放送教育開発センター編	印刷教材10冊含1巻	一九〇〇円
基礎電子工学—エレクトロニクス入門—	小川鑛一著	二二七〇円	○メディア・ミックスの授業—総合選択制高校(約45分)		
土木工学—社会資本の技術—	中村 英夫編著	二二七〇円	放送教育開発センター編	印刷教材10冊含1巻	一九〇〇円
中国の思想	溝口 雄三著	一七五〇円	○マイクロテイーキング—岡山大学の実践(約45分)		
文化人類学 (改訂版)—世界の民族と日本人—	祖父江孝男著	一六五〇円	放送教育開発センター編	印刷教材10冊含1巻	一九〇〇円
ヨーロッパ論—ロシア史とその周辺—	阿部玄治著	一六五〇円	○教育とコンピュータ文をつくる(約45分)		
ドイツの言語文化—自己省察の歴史—	辻 理・三島 憲一編著	一九六〇円	放送教育開発センター編	印刷教材10冊含1巻	一九〇〇円
西洋近代哲学史	中埜 肇著	一六五〇円	○教育とコンピュータ—航空機の座席予約(約45分)		
中世日本文学	久保田 淳編著	一九六〇円	放送教育開発センター編	印刷教材10冊含1巻	一九〇〇円
近現代の東南アジア	和田 正彦著	二二七〇円	○教育とコンピュータ理科とクラブ活動(約45分)		

放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇〇円
教育とコンピュータセンター編 ユニターソフトの使い方(約45分)
放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇〇円

○特殊教育—聴覚をいかにす(約35分)
放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇〇円

○特殊教育—精神薄弱児の教育とコンピュータ(約30分)
放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇〇円

○特殊教育—点字で学ぶ(約30分)
放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇〇円

○体育—水泳・水遊び(浮く・泳ぐ)―小学校低学年(約30分)
放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一九〇〇〇円

○体育—水泳・クロール―小学校中・高学年(約30分)
放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一四〇〇〇円

○体育—水泳・平泳ぎ―小学校中・高学年(約30分)
放送教育開発センター編 印刷教材10冊含1巻 一四〇〇〇円

■明星大学出版部

対独アメリカ教育使節団報告書
対独アメリカ教育使節団報告書翻訳検討委員会 二四七二円

■早稲田大学出版部

俳文史研究序説 堀切 実 四二二〇円
早稲田大学図書館 館蔵資料図録

東西文明の調和〔複製版〕 早稲田大学図書館編 七〇〇〇円
コンラッドの小説 大隈 重信 三〇九〇円

閉じた戯曲 開いた戯曲 照屋 佳男 三二九六円

ヘーゲルの宗教哲学 V・クロッツ／戸室博・高橋行徳訳 三五〇二円
ロシア民話の世界 W・イエシユケ／岩波哲男訳 二四七二円

エイジング大事典 藤沼貴編著 三六〇五円

G・L・マドックス編／同大事典刊行委員会監訳 一八五四〇円
朝河眞一書簡集 同編集委員会編 二五〇〇〇円
早稲田文学 11月号〜4月号 早稲田文学会 各五三〇円
科学哲学23 特集・科学哲学の未来を問う

平和研究第15号 特集・科学と平和 日本科学哲学会編 一八五四円
東西文学の接点〔新版〕 日本平和学会編 二五七五円

英国産業革命史〔普及版〕 富田 仁 一三三九円
イギリス自由主義の展開―古い自由主義の連続を中心に― 小松 芳喬 一九五七円

ハムレット―シェイクスピア劇への序文― 柴田 卓弘 八二四〇円
グランヴィル・パーク／臼井善隆訳 五三五六円

舶来事物のネーミング〔早稲田選書〕 富田 仁 一九五七円
エレクトロニクスと材料 全5巻 犬塚直夫・伊藤料次編

2 エレクトロニクスデバイスと薄膜 二瓶・柴田 二五〇〇円
源氏物語資料影印集成 全12巻完結 中野幸一編

第11巻 十帖源氏 一〜六 一五四五〇円
第12巻 十帖源氏 七〜十・雨夜物語だみことば 一五四五〇円

早稲田大学蔵資料影印叢書 国書編全32巻
第19巻 室町物語集 二 中野 幸一編 一五四五〇円

第30巻 馬琴評答集 (四) 柴田 光彦編 一五四五〇円

■名古屋大学出版部

現代教育の原理 田浦武雄／潮木守一／日比裕編 二二六六円
企業結合と独禁法―比較法的考察― 服部 育生 五六六五円

ウィルソンの国際社会政策構想―多角的国際協力の礎石― 草間秀三郎 五六六五円
スコットランド法史

情報処理教育センター利用の手引 第5版 ステアー・ソサエティ編／戒能通厚他訳 三六〇五円

名古屋大学情報処理教育センター編 八〇〇円

英詩再入門

近代日本の国民国家と地方自治―比較史研究―

Buerger's Disease―Pathology, Diagnosis and Treatment―

現代日本語コース中級―録音テープ

名古屋大学総合言語センター日本語学科編

東北アジアの歴史と社会

乳幼児の心身発達と環境―大阪レポートと精神医学的視点―

現代貨幣信用論

個と宇宙―ルネサンス精神史―

ロシア中世文法史

スコットランド啓蒙思想史研究―文明社会と国制―

権力・知・日常―ヨーロッパ史の現場へ―

京都大学学術出版会

黒田麴廬と『漂流紀事』

大阪経済法科大学出版部

東アジアの社会と経済(国際学術シンポジウム報告書)

関西大学出版部

A Study in the Theory of General Equilibrium and Growth

法律行為論上の基本的諸問題

新聞記事からみた水平社運動

刑法上の諸問題

川崎 寿彦 二五七五円

山田 公平 五六六五円

塩野谷恵彦 八二四〇円

七二一〇円

五一一〇円

五一一〇円

二五七五円

五一一〇円

二五七五円

三六〇五円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

五一一〇円

中国農村の歴史と経済
欧米の中小企業問題

九州大学出版会

近世北部九州諸藩史の研究

障害児の心理と指導

経済学への道

北九州市成立過程の研究―合併論・合併運動を中心として―

現代南洋華僑の動態分析

全訂 判例演習 会社法

フランス社会保障医療形成史(北九州大学法政叢書10)

デュイイの知識論

ゲームと情報の経済分析Ⅱ

E・ラスムセン／細江・村田・有定訳

石田 浩 九六〇〇円

田中 充 五九〇〇円

榎垣 元吉 八二四〇円

山下 功編 五一五〇円

荒牧 正憲 三五〇二円

徳本 正彦 一〇三〇〇円

市川 信愛 五一五〇円

蓮井良憲・森淳二朗編 二四七二円

久塚 純一 六一八〇円

谷口 忠顕 三五〇二円

三二九六円

第12回（平成二年度）

日本生命財団出版助成図書

刊行期間
平成三年4月～
平成四年3月

●日本生命財団は優れた研究成果でありながら出版の困難な学術専門書を対象に大学出版部協会加盟出版部に出版助成を行なっている（既刊142点）

(1) アメリカの環境保護法

畠山武道（北海道大学法学部教授）著

北海道大学図書刊行会

(2) 日本の地盤液状化履歴図

若松加寿江（早稲田大学理工学研究所特別研究員）著

東海大学出版会

(3) 新老年学

——長寿社会の成熟をめざして——

折茂 肇（東京大学医学部老年病学教室教授）編集代表

東京大学出版会

(4) 火山灰アトラス

——日本列島とその周辺——

町田 洋（東京都立大学理学部教授）
新井房夫（群馬大学教育学部教授）著

東京大学出版会

(5) 図解・日本の人類遺跡

春成秀爾（国立歴史民俗博物館考古研究部教授）
小野 昭（新潟大学人文学部助教授）
小田静夫（東京都教育庁文化課）編

東京大学出版会

(6) 南島説話の研究

福田 晃（立命館大学文学部教授）著

法政大学出版局

(7) 日本湖沼誌

——プランクトンから見た富栄養化の現状——

田中正明（愛知県公書調査センター東三河支所主任）著

名古屋大学出版会

(8) 八幡宮の建築

土田充義（鹿児島大学工学部教授）著

九州大学出版会

大学出版部協会の歩み

国際学術出版連合に加入。

昭和52年(一九七七)12月 東京電機大学出版局、協会再加入。

の協賛により丸善本店で開催。名古屋大学出版会、協会加入。

昭和38年(一九六三)6月11日 大学出版部協会設立

(総会、東京大学出版会館にて。玉川大学出版部、中央大学出版部、東海大学出版会、東京

昭和53年(一九七八)2月 協会、初めて「大学出版部協会総合図書目録」一九七八年度版(合本)

を刊行し、共同発送。以後年一回定期。

昭和58年(一九八三)5月 大学出版部協会創立二〇周年記念講演会を紀伊國屋ホールにて開催。

大学出版会、東京電機大学出版局、東京農業

同 年5月 東京大学出版会にて、「協会創立一五周年・回顧と展望」座談会を行なう。

昭和60年(一九八五)4月 新幹事長に石井和夫(東京大学出版会)選出。東京理科大学出版会、東京農業大学出版会、協会加入。

会、日本図書文化協会(東京教育大学)、早稲

同 年10月 大学出版部協会創立一五周年記念、大学出版図書展示即売会」を紀伊國屋書店PR

昭和61年(一九八六)5月 「大学出版」86春 創刊。

田大学出版部、以上十校代表者により大学出版部協会設立総会を行なう。大学出版部協会

同 年12月 明星大学出版部、協会加入。

昭和62年(一九八七)9月 北京・国際外国語教育図書展示会へ大学出版部協会訪中代表団参加。

初代幹事長 箕輪成男。

昭和54年(一九七九)8月 産能大学出版部、協会加入。

昭和63年(一九八八)6月 大学出版部協会創立二五周年記念と感謝の会をアルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催。「25年の歩み」刊行。

昭和46年(一九七一)11月 関西大学出版部、協会加入。

昭和55年(一九八〇)7月 日本生命財団第一回出版助成の贈呈式と講演会(大阪・日本生命ビル)入。

昭和64年(一九八九)4月 放送大学教育振興会、大阪経済法科大学出版部。協会加入。

同 年11月 アジア太平洋地域大学出版部会議(国際図書年)を記念して(第一回)東京開催。主催大学出版部協会。

同 年12月 慶應通信、協会加入。

同 年7月 新幹事長に山田涉(東海大学出版会)選出。

昭和51年(一九七六)5月 国際出版連合(I.P.A.)

昭和56年(一九八一)8月 韓国大学出版部協会訪日団の歓迎レセプション(日本出版クラブ)。

平成元年(一九八九)4月 放送大学教育振興会、大阪経済法科大学出版部。協会加入。

京都大会、および国際学術出版連合第二回総会を国立京都国際会議場にて開催。

同 年9月 中国にて「日本大学出版物展覧会」を中国図書進出口総公司の主催、大学出版部協会の協賛により開催。

同 年11月 世界の大学図書展開催。中国・韓国両大学出版部協会代表団、来日。

同 年9月 新幹事長に中平千三郎(東京大学出版会)選出。九州大学出版会、協会加入。

昭和57年(一九八二)9月 「日米大学出版局刊行物展」が丸善主催、日米両国の大学出版部協会

平成2年(一九九〇)4月 京都大学学術出版会、協会加入。

同 年11月 玉川大学出版部・東海大学出版会、

大学出版部協会加盟出版部一覽

北海道大学図書刊行会	〒060 札幌市北区北9条西8丁目 北大構内 TEL. 011-747-2308 FAX 011-736-8605
慶應通信	〒108 東京都港区三田2-19-30 TEL. 03-3451-3584 FAX 03-3451-3122
産能大学出版部	〒152 東京都目黒区自由が丘2-16-5 自由が丘サンビル TEL. 03-3724-9101 FAX 03-3717-4346
玉川大学出版部	〒194 東京都町田市玉川学園6-1-1 TEL. 0427-28-3213 FAX 0427-28-3218
中央大学出版部	〒192-03 東京都八王子市東中野742-1 TEL. 0426-74-2351 FAX 0426-74-2354
東海大学出版会	〒160 東京都新宿区新宿3-27-4 新宿東海ビル TEL. 03-3356-1541 FAX 03-3341-1833
東京大学出版会	〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学構内 TEL. 03-3811-8814 FAX 03-3812-6958
東京電機大学出版局	〒101 東京都千代田区神田錦町2-2 TEL. 03-3294-1551 FAX 03-3294-2807
東京農業大学出版会	〒156 東京都世田谷区桜丘1-1-1 TEL. 03-3420-2131 FAX 03-3706-8851(総務課)
東京理科大学出版会	〒162 東京都新宿区若宮町19 TEL. 03-3235-5692 FAX 03-3235-9632
法政大学出版局	〒102 東京都千代田区富士見2-17-1 TEL. 03-3237-1731 FAX 03-3237-8899
放送大学教育振興会	〒105 東京都港区虎ノ門1-14-1 郵政互助会琴平ビル4F TEL. 03-3502-2750 FAX 03-3592-2482
明星大学出版部	〒191 東京都日野市程久保2-1-1 TEL. 0425-91-5115 FAX 0425-93-0192
早稲田大学出版部	〒169 東京都新宿区戸塚町1-103 TEL. 03-3203-1551 FAX 03-3207-0406
名古屋大学出版会	〒464-01 名古屋市中種区不老町1 名古屋大学構内 TEL. 052-781-5027 FAX 052-781-0697
京都大学学術出版会	〒606 京都府京都市左京区吉田本町 京都大学構内 TEL. 075-761-6182 FAX 075-761-6182
大阪経済法科大学出版部	〒581 大阪府八尾市楽音寺6-10 TEL. 0729-41-8211 FAX 0729-41-9979
関西大学出版部	〒564 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL. 06-388-1121 FAX 06-330-3718
九州大学出版会	〒812 福岡市東区箱崎7-1-146 九州大学構内 TEL. 092-641-0515 FAX 092-641-0172

大学出版(第11号)91春 平成3年5月1日発行 発行者 大学出版部協会

〒113 東京都文京区本郷7丁目3番1号東大構内 東京大学出版会内 電話 03-3812-2111 (内)7954
頒布価格100円(本体97円)千共